

中期計画（2024－2029）

「スポーツの力で
ぐんまを元気にします」



公益財団法人群馬県スポーツ協会

目 次

第1章 はじめに

1 群馬県スポーツ協会の目的・役割	1
2 群馬県スポーツ協会組織図	2
3 策定趣旨・位置づけ	3
4 群馬県スポーツ協会中期計画全体像	4
5 群馬県スポーツ協会事業体系図	5

第2章 ビジョン2029（5年後の目指す姿）

1 生涯スポーツの推進	6
2 健康・体力の保持増進	7
3-1 競技スポーツの推進	8
3-2 第83回国民スポーツ大会の成功	9
4 スポーツ施設管理運営の充実	10
5 組織・運営体制の充実	11
6 中期計画成果指標一覧（2024～2029）	12

第1章 はじめに

1 群馬県スポーツ協会の目的・役割

- (1) 1977年(昭和52年)10月に財団法人群馬県スポーツ振興事業団が発足し、2011年(平成23年)10月に財団法人群馬県体育協会と合併、財団法人群馬県スポーツ協会が発足し、平成25年4月に「公益財団法人群馬県スポーツ協会」に移行し新たにスタートしました。

なお1928年(昭和3年)に設立した群馬県体育協会から数えて、本中期計画期間中の2028年(令和10年)に創設100周年を迎えます。

- (2) 本協会は定款第3条に基づき、県民総スポーツを目標として、スポーツの健全なる普及発展に努め、競技力向上と生涯スポーツの推進及び健康・体力の保持増進を図り、もって明るく豊かなスポーツ健康立県を実現することを目的としています。

- (3) 本協会は定款第4条に基づき、次の事業を行っています。

- ・県民総スポーツ運動の推進に関する事
- ・スポーツ、レクリエーションを通じた県民の健康増進に関する事
- ・スポーツの競技力向上に関する事
- ・群馬県及び公益財団法人日本スポーツ協会との連絡調整を図る事
- ・加盟団体の発展と相互の連絡融和を図る事
- ・国民スポーツ大会等に選手及び役員を派遣する事
- ・スポーツ指導者の育成・活用に関する事
- ・指導者バンク運営に関する事
- ・地域・職域スポーツの推進と、スポーツ教室等の開設に関する事
- ・各種スポーツ大会等の支援に関する事
- ・体力の向上に関する調査及び医科学的研究を行い、県民の健康管理の推進を図る事
- ・スポーツ少年団及び青少年スポーツの推進に関する事
- ・スポーツ顕彰に関する事
- ・スポーツに関する広報・情報提供に関する事
- ・公有スポーツ施設の指定管理に関する事
- ・その他この法人の目的を達成するのに必要な事業

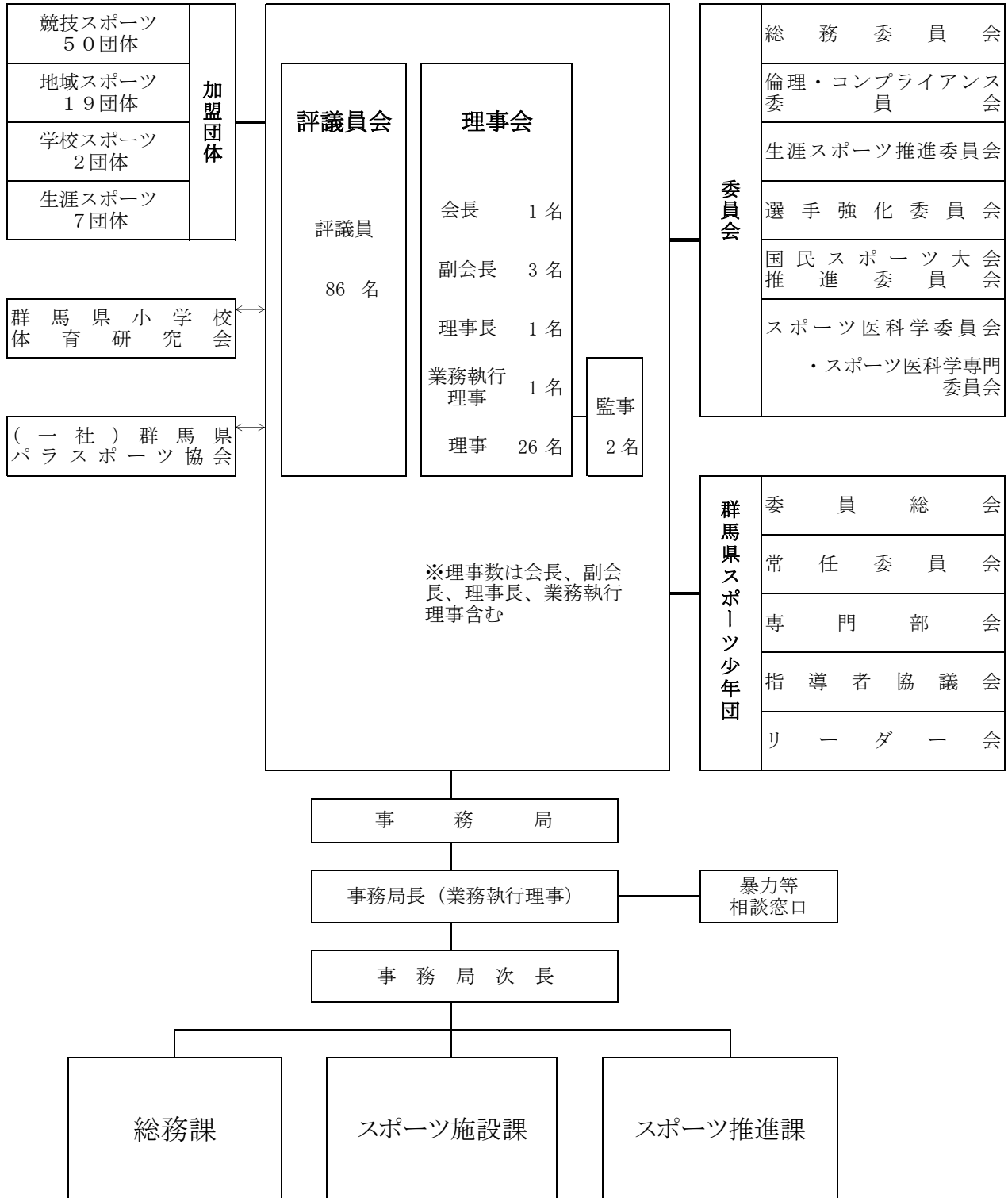
- (4) 本協会には、群馬県内の78団体(50競技スポーツ団体、19地域スポーツ団体、2学校体育スポーツ団体、7生涯スポーツ団体)が加盟しています。

- (5) 本協会は、指定管理者(令和2年度～6年度)として、次の県有施設について管理運営しています。

- ①ALSOK ぐんま総合スポーツセンター(前橋市)
- ②高崎健康福祉大学伊香保リンク(渋川市)

2 群馬県スポーツ協会 組織図

令和6年4月1日現在



3 策定趣旨・位置づけ

- (1) 国においては、スポーツ基本法に基づき、スポーツ基本計画が策定されています。群馬県においても「群馬県スポーツ推進計画」が策定され、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進等に向け様々な施策に取り組むこととされています。
- (2) 本協会では、国・県また日本スポーツ協会の方針等も踏まえて本県のスポーツ推進に寄与するとともに、県民総スポーツを目標として、スポーツの健全なる普及発展に努め、加盟団体と連携し、スポーツ推進施策など、様々な事業に取り組んでいます。
- (3) 2029年第83回国民スポーツ大会の開催が本県で予定されています。大会成功に向けて本協会では、競技力向上・スポーツ医科学を活用した環境整備、さらに大会終了後も継続可能な競技力向上への取組みを推進できる体制の構築を目指しています。
- (4) スポーツ庁が定めた「スポーツ団体ガバナンスコード」における中長期計画の策定義務を踏まえ、新たな時代に応じた群馬県独自の持続可能な競技力向上や生涯スポーツの推進とともに、本協会の組織・運営体制の充実に向けて、加盟団体・関係スポーツ団体等と連携・協力し、今後5年間に取組むべき事業方針を明らかにした中期計画を策定することとしました。
- (5) 今後5年間の事業方針となるビジョン（目指す姿）だけではなく、本協会のパーパス（存在意義）とミッション（使命）も定義しました。このビジョン、パーパス、ミッションを踏まえて、事業計画を毎年度策定し、具体的な取組みを進めていきます。

公式ポスター



4 群馬県スポーツ協会中期計画全体像

パーパス（スポーツ協会の存在意義）

「スポーツの力でぐんまを元気にします」

本協会は、このパーパスを出発点として、多くの方々の「元気」と「感動」を与えられるよう加盟団体とともに活動を展開していきます。

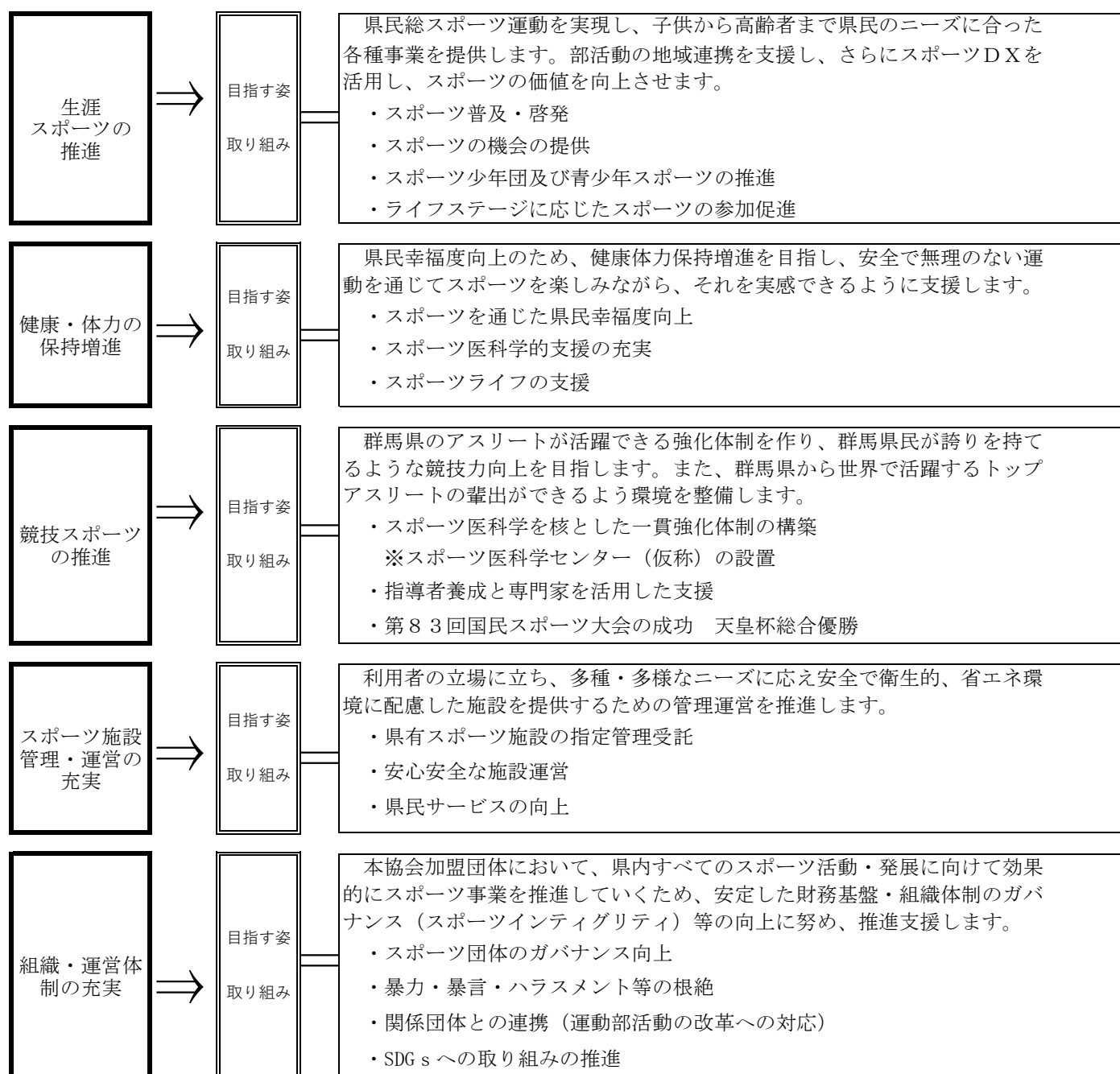
ミッション（スポーツ協会の使命）

「明るく豊かなスポーツ健康立県を実現します」

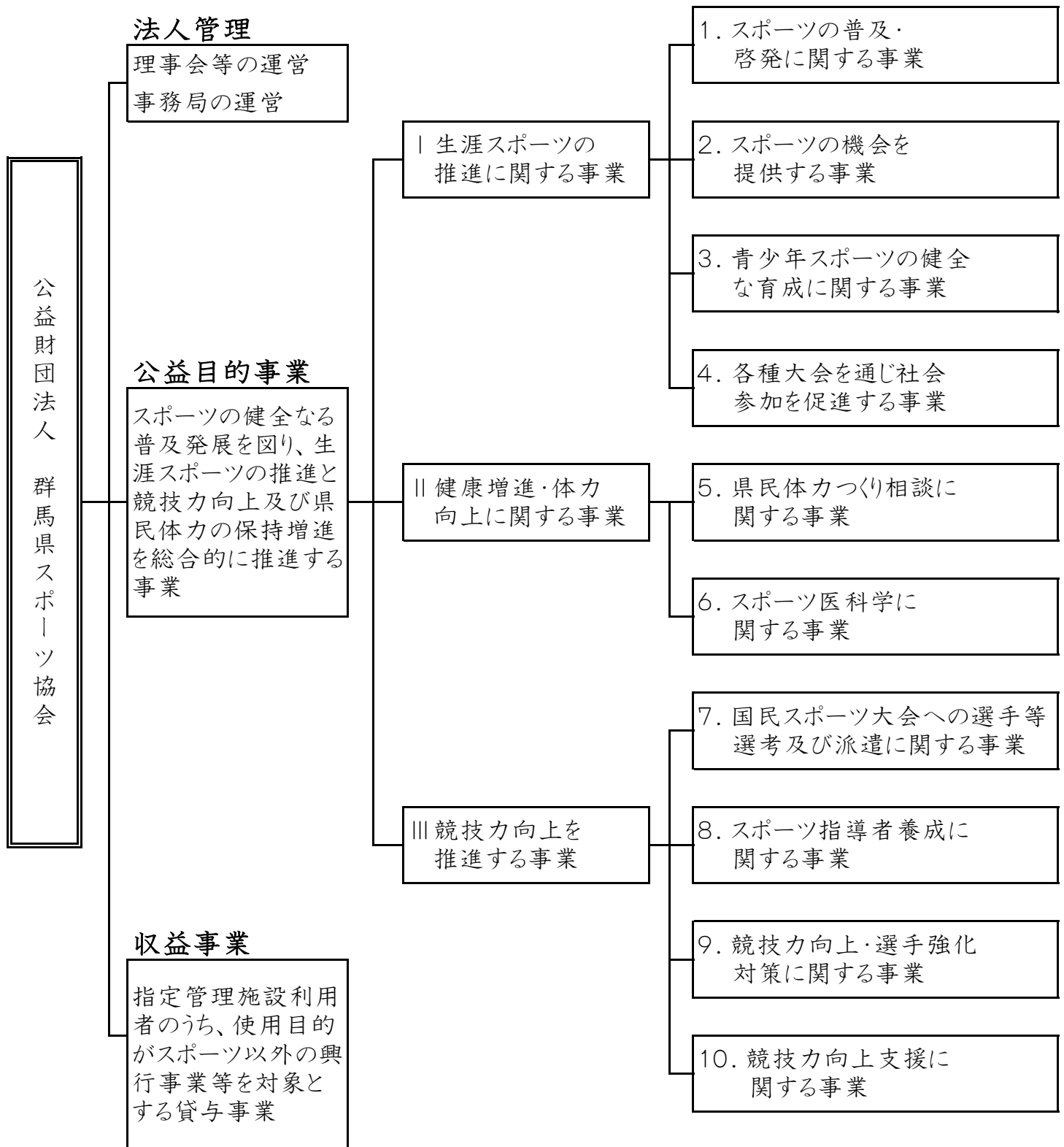
本協会の設立目的であるこのミッションを達成するため、スポーツの健全なる普及発展に加盟団体とともに努めていきます。

ビジョン2029（目指す姿）

私たちが群馬県民とともにスポーツを通じて実現したい姿です。



5 群馬県スポーツ協会 事業体系図



第2章 ビジョン2029（5年後の目指す姿）

1 生涯スポーツの推進

目指す姿	県民総スポーツを実現し、子供から高齢者まで県民ニーズに合った各種事業を提供します。また、部活動の地域連携を支援し、さらにスポーツのDXを活用し、スポーツの価値を向上させます。
現状認識	○少子高齢化などの社会的変化でスポーツ人口が減少してきています。 ○指導者不足が続く中、それぞれのライフステージに応じたスポーツ指導者の確保や活躍の場が求められています。 ○休日の部活動の地域連携・移行を円滑に進めるための体制整備や指導者の育成を進めていく必要があります。 ○スポーツの分野でのインクルージョンが進んでいません。
取り組む事項	○スポーツ人口の拡大に向け、各種教室やスポーツ体験イベントの開催をはじめ、競技団体や地域団体が行うスポーツ体験事業を支援し、スポーツの機会の提供に取り組みます。また、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなどと連携し、地域住民へのスポーツの普及啓発と青少年の健全育成に取り組みます。 ○子供から高齢者までそれぞれのライフステージに対応したスポーツ指導者の養成と指導力の向上を図るための各種研修を開催し、研修内容を充実させます。さらに、「スポーツ指導を行いたい人と受けたい人を結びつける」人材バンク制度をDXを活用して再構築し、スポーツ参加の促進に取り組みます。 ○休日の部活動の地域連携・移行に向けて、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携して資格取得者の養成や登録クラブの質の向上に取り組みます。また、受け皿となり得る郡市スポーツ協会やスポーツ少年団等への情報提供に取り組みます。 ○各競技団体や県パラスポーツ協会と連携し、健常者と障がい者が一緒に参加できるスポーツイベント等を開催し、継続可能で「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて取り組みます。

2 健康・体力の保持増進

目指す姿	県民幸福度向上を目指し、安全で無理のない運動を通じて健康保持増進を実施し、スポーツを楽しみながら、それを実感できるように指導します。
現状認識	○県民幸福度アンケート（令和4年度）によると、「幸せかどうか」を感じる回答として、健康が1位であり65.2%を示しています。 このことから健康状況が県民にとって最も重視度が高い事項であり、県民の運動習慣の定着を図るための対策が必要です。 ○運動不足や食生活の変化、日常生活のストレスの増加により運動機能の障害や生活習慣病などの問題を抱える人が増加しています。 ○子供から高齢者まで健康で文化的な生活を送るためにはライフステージに合わせた体力づくりと運動習慣の定着が必要です。
取り組む事項	○様々な広報媒体やスポーツ医科学、関連事業でスポーツと健康の関係やスポーツ実施促進の効果的な方法等について周知し、科学的根拠に基づいた安全かつ効果的なスポーツの習慣化に取り組みます。 ○体力測定を実施し、科学的根拠に基づいた指導や助言を行い、安全で無理のない運動プログラムを作成するなど県民の健康保持増進のための医科学的支援に取り組みます。 ○時間や場所にとらわれない運動・スポーツの体験のため、動画配信等により年代に応じた、気軽にできるスポーツの紹介や情報発信を行う。また、市町村や企業等と連携を図り、スポーツに関する広報活動や地域でスポーツ活動を実施しているスポーツ団体の情報を提供し、一人一人に合ったスポーツライフの支援に取り組みます。

3-1 競技スポーツの推進

目指す姿	群馬県のアスリートの活躍により群馬県民に誇りを持たせ、競技力向上を目指します。また、群馬県から世界で活躍するトップアスリートの輩出ができるような環境を整備します。
現状認識	○各競技団体で指導者不足が続いている。さらに指導者の高齢化等による指導技術の継承への懸念があります。 ○少子化やスポーツ離れによる「ジュニア選手の減少」や「有力選手の県外流出」が続いています。 ○世界で活躍する選手育成には科学的根拠に基づく強化が不可欠であるとともに、選手が健康を維持したまま競技が続けられる医科学サポート体制の必要があります。
取り組む事項	○高度な知識を有する専門家を講師とした研修会・講習会等を開催し指導者の資質向上を図る。さらに日本スポーツ協会等の公認資格取得のための支援を行い、指導者の育成や確保を促進する。また、指導者がコンプライアンスへの正しい知識を習得し、理解と関心を深めるための教育・研修も実施します。 ○競技団体のジュニアから全国レベルに育成するプログラムを「わくわく運動プロジェクト、ぐんまプレキッズ、ぐんまスーパーキッズ事業」により支援し、一貫強化体制の構築を図る。また、県、学校スポーツ団体や市町村と連携し、地域でジュニア発掘ができる拠点づくり体制を整備します。 ○ALSOK ぐんま総合スポーツセンターを県内のスポーツ医科学の拠点として最新機器の導入や施設整備を行い、メディカルチェック、体力測定、筋力測定、栄養指導等を関係機関と連携して実施し、医科学的サポートの充実を図る。さらに専門家（アナリスト）を活用し、「データを活用したフィードバック」や「競技特性に応じた測定項目の策定」なども行い、科学的根拠に基づいた「スポーツ医科学を核とした一貫強化体制」を構築します。

3-2 第83回国民スポーツ大会の成功

目指す姿	第83回国民スポーツ大会における天皇杯・皇后杯総合優勝を獲得することで県民に感動、誇り、スポーツの素晴らしさを伝え「スポーツをする人、見る人、支える人」を増やし地域の活性化を目指します。
現状認識	○過去5年間の平均総合獲得点が914点で、天皇杯・皇后杯獲得に必要な2,800点（仮）まであと1886点が必要であり、天皇杯・皇后杯獲得のための強化体制の構築する必要があります。 ○競技団体、学校スポーツ団体、市町村など国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯獲得に向けて「オール群馬チーム」としての意識統一の必要があります。 ○天皇杯・皇后杯獲得には「成年選手のふるさと制度活用」や、「県外流出の阻止」、学校・チームの枠を超えた「オール群馬チーム」の必要があります。 ○県民や市町村の国民スポーツ大会に向けた気運の醸成の必要があります。
取り組む事項	○天皇杯・皇后杯獲得のため、他県の獲得得点の状況や推移の分析を行い、「ぐんまHPS」と連携することにより競技団体が自らの目標・達成方法を明確化し、「スポーツ医科学を核としたジュニア一貫強化体制」の構築をサポートします。 ○県全体の競技力の底上げと意識の統一のため競技団体間における横のつながりを構築する情報共有会議等を開催し、効果的、効率的な選手強化ができるよう、組織体制、環境作りをサポートします。 ○国民スポーツ大会に向け「オール群馬チーム」構築のため、選手強化指定制度を見直し、選手への自覚と誇りを持たせるサポートを実施します（選手へ直接的な支援ができる制度を目指す）。 ○県民や市町村へ開催の意義について積極的に周知していき、スポーツに関わる楽しさと感動を県全体に広め、活力あふれる「地域づくり」や「健康づくり」、「生きがいづくり」に繋がります。

4 スポーツ施設管理運営の充実

目指す姿	利用者の立場に立ち、多種・多様なニーズに応え安全で衛生的、省エネ環境に配慮した施設を提供するための管理運営を推進します。
現状認識	【共通】 ○施設老朽化に伴う整備（長期・中期）の必要性が高まっている。 ○県有スポーツ施設の指定管理受託のための、令和6年度次期指定管理者選定のためのプレゼンテーションをします。 【前橋】 ○令和7年度：新予約システム導入が予定されている、またDXを進めていく必要があります。 【伊香保】 ○夏期期間の有効活用について工夫するとともに、収支改善に取り組む必要があります。 ○全国規模の大会が予定される中で、問題なく運営が担える会場整備や運営体制を構築していく必要があります。 ※令和6年度：第79回国民スポーツ大会スケート競技会（スピード競技）開催 ※令和7年度：第46回全国中学校体育大会アイスホッケー競技会開催（仮）
取り組む事項	【共通】 ○次期指定管理者選定プレゼンテーションに向け、協会として指定管理の必要性を再検討し、より良い施設運営を検討するとともに実践します。 ○適切な施設整備を行い、安心安全な施設運営に取り組む。また、各施設にWi-Fi設備を整え円滑な競技大会運営をサポートします。 【前橋】 ○令和7年度より導入される新予約システムが円滑にスタートできるよう準備・周知を徹底します。 ○巡回点検や衛生環境維持サービスの向上に取り組めます。 【伊香保】 ○夏期期間における有効活用を促進するため、SNS等を積極的に利用し、様々な関係団体へ活用方法を提案する。また、多様な利用方法に対応するために必要な整備を実施します。 ○各種大規模大会の開催に必要な会場整備を、県や関係団体と協議・相談し、県と協力して計画的に進めます。

5 組織・運営体制の充実

目指す姿	本協会加盟団体において、県内すべてのスポーツ活動・発展に向けて効果的にスポーツ事業を進めていくため、安定した財務基盤・組織体制のガバナンス（スポーツインテグリティ）等の向上に努め推進支援します。
現状認識	○スポーツ庁が定めるガバナンスコードの整備を行い、加盟団体が健全な組織運営を進めるとともに、その取り組み状況を適切に公開する必要があります。 ○組織運営における適切なガバナンスの確保を図るため必要に応じて規定などの見直し、改訂を行うとともに役員ならびに加盟団体などにおいても研修を重ねていく必要があります。 ○組織運営の強化に関する人材の採用及び育成に関する計画を策定していません。 ○医療、法律、税務、会計等の専門家のサポートを日常的に受けることができる体制ができていません。
取り組む事項	○女性及び外部役員の登用など組織役員等の構成において多様性に取り組みます。 ○規程・規約・事業等の見直し、整備を行い組織運営に必要な環境整備に取り組みます。 ○役員・指導者・選手のコンプライアンス向上を目指し、各種研修会等を実施します。 ○暴力相談窓口などのマニュアル策定に取り組みます。 ○「人材の育成計画」及び「人材の採用計画」の策定に取り組みます。 ○産業医、社会保険労務士や弁護士等の専門家のサポートについて取り組みます。 ○既存事業における収益のみならず新規支援者、助成金の獲得、自己財源確保を図ることにより、公益性のある事業を長期的・安定的に実施できる環境を整備することに取り組みます。 ○事業評価システムを実施し、その運用について進捗を把握することにより、着実に実施されるよう事務局体制の整備等必要な措置を講じることに取り組みます。 ○公益法人としてSDGsに積極的に取り組みます。

6 中期計画成果指標一覧（2024～2029）

	取り組み	指標	達成目標	関連するビジョン
1	「スポーツの普及・啓発」 人材の育成及び資質向上を目的とする研修会・講習会を開催するとともに、地域・職域等のニーズに応じた指導者を派遣しスポーツの指導を行うことで、県民の健康に対する意識の高揚と健康保持増進を進めていきます。	指導者バンク登録者数 110名（R4実績）	指導者バンク登録者数 10%増	生涯スポーツの推進
2	「スポーツの機会の提供」 少子高齢化や社会の急激な変化に伴い、県民のスポーツに対するニーズも高度化・多様化しています。年齢や体力に応じたスポーツを提供していきます。	巡回スポーツ指導人数 153,850名（R4実績）	巡回スポーツ指導人数 155,000名以上	生涯スポーツの推進
3	「青少年の健全育成」 スポーツ少年団を中心に、青少年の健全育成に取り組みます。少子化によるスポーツ人口の減少が進む中、支えるスポーツとして、地域・学校・スポーツ少年団・地域クラブ等や、群馬県教育委員会と連携し子供たちが継続してスポーツに親しむ機会を提供・確保します。	スポーツ少年団団員数 15,141名（R4実績） ・わくわく運動プロジェクト参加者数 1,318名（R4実績）	スポーツ少年団団員数 15,500人以上 わくわく運動プロジェクト参加者数 1,500人以上	生涯スポーツの推進
4	「ライフステージに応じたスポーツの参加促進」 市町村のニーズを踏まえながら子供から高齢者まで対応した、スポーツ体験事業を進めます。スポーツ教室・公開講座等を提供し、スポーツの楽しさを体験するとともに、健康促進を進めます。	チャレンジスポーツ教室参加数 1,081名（R4実績）	参加者数 1,500名以上	生涯スポーツの推進
5	「スポーツを通じた県民幸福度向上」 「スポーツ医科学的支援の充実」 「スポーツライフの支援」 市町村・競技団体・中体連・高体連・支援企業等と連携を図りながら、体力測定を実施し群馬県全体の体力向上を推進します。	メディカルチェック・体力測定数 211名（R4実績）	メディカルチェック体力測定数400人以上	健康・体力の保持増進
6	「スポーツ医科学を核とした一貫強化体制の強化」 「指導者養成と専門家を活用した支援」 スポーツ医科学を活用した、新たなステージの枠組み、「ぐんまモデル」の取り組み・構築を進めます。	公認指導者数 4,068名（R4実績） アスレティックトレーナー数 38名（R4実績） 栄養士数 7名（R4実績）	公認指導者数 30%増	競技スポーツの推進

	取り組み	指標	達成目標	関連するビジョン
7	「第83回国民スポーツ大会の成功 天皇杯総合優勝」 群馬県で開催される国民スポーツ大会に向け、「オール群馬チーム」構築に取り組みます。 また、トップアスリートや指導者の活躍が県民にスポーツの素晴らしさを伝え、群馬県の誇りを持たせます。	2029年群馬県開催 国スポへの準備 ・競技力向上 第78回天皇杯26位	2029年 第83回 国民スポーツ大会 総合優勝 天皇杯1位 皇后杯1位	第83回国民スポーツ大会の成功
8	「県有スポーツ施設の 指定管理受託」 「安心安全な施設運営」 「県民サービスの向上」 総合スポーツセンター管理運営にあたり多様なニーズに応え、安全衛生的な管理運営に取り組みます。	利用者数 769,971人 (R4実績)	利用者数 1,250,000人以上	スポーツ施設 管理運営の 充実
	伊香保リンク管理運営にあたり、適切な施設整備を行い安全安心な施設運営に取り組みます。	利用者数 38,409人 (R4実績)	利用者数 60,000人以上	
9	「スポーツ団体の ガバナンス向上」 群馬県スポーツ協会加盟団体において、安定した財務基盤・組織体制のガバナンス強化（スポーツインテグリティ）、ガバナンスコードの遵守状況の公表など、当協会を含め各競技団体等の組織体制の充実を図るため、スポーツ協会及び・加盟団体における組織体制向上の支援に取り組みます。	ガバナンスコードの遵守状況の公表数	2029年 加盟団体100%	組織・運営 体制の充実
		組織役員構成 (理事女性23%)	女性比率30%	
10	「暴力・暴言・ハラスメント等の根絶」 群馬県スポーツ協会暴力等相談窓口により、スポーツ活動における不適切な行為を受けた時や見かけた時の相談先としての役割を果たすことに取り組みます。	相談窓口認知度	スポーツ関係者 相談窓口 認知度80%	組織・運営 体制の充実